

最高峰の荒川豊蔵作品がここに

今回展示する作品の一部と陶磁器鑑賞がより楽しくなるポイントを紹介します。知れば知るほど奥が深い陶磁器。じっくり鑑賞してみたいかがですか。



鼠志野梅絵茶碗(昭和33年頃作陶)
淡いねずみ色の表面に桃色がかった白抜きの梅が見どころ

何の跡だろうー

茶碗の下の方に数箇所みられる釉薬が剥げたような謎の丸い跡。この作品だけでなく、他の作品にも同様の跡がみられます。これは豊蔵の指跡で、手作りの証。作品の見どころとして意図的に付けられたものです。作者の痕跡は、他にも絵の描き方、形の削り方などからも観察することができます。



瀬戸黒茶碗「銘 思い出」(昭和15年作陶)
桃山期の瀬戸黒を思い起こさせる腰張りの茶碗。釉薬の縮れ、ロクロ目と縦筋のへう目が見どころ

ふちが歪んでいて飲みにくそうー

茶碗のふちに注目すると、波を打ったように歪んでいる作品が多くあります。これは、形の歪みを「遊び」や「造形美」と捉えた表現テクニックです。一見すると飲みにくそうですが、この歪みには飲み口が丁寧に作り込まれていて、使う人への心遣いが行き届いています。



志野○△文茶碗(昭和47年作陶)
淡い桃色や所々に現れた緋色、素朴な絵が見どころ

何が書いてあるー

志野茶碗の絵の多くは、線や輪郭だけで描かれており、どれもはっきりしていません。これは、約400年前に作られた美濃桃山陶に見られる美意識に倣った描写です。あえて詳細な描写をせず、使う人の想像や解釈に委ねる日本らしい表現テクニックと言えます。



鼠志野茶碗(昭和30年代作陶)
釉薬を付けた濃淡で生じる釉肌の色彩の変化が見どころ

ひっくり返しの写真は何のためー

茶碗の展示では、作品の裏側の写真が添えられていることがあります。これは器の台の部分である「高台」から、使われている陶土や釉薬などの素材や技を観察できるようにするためです。例えばこの茶碗のねずみ色の部分は、茶色(鬼板)の上から乳白色(長石釉)が重ねてあることが分かり、作陶の工程を知ることができます。



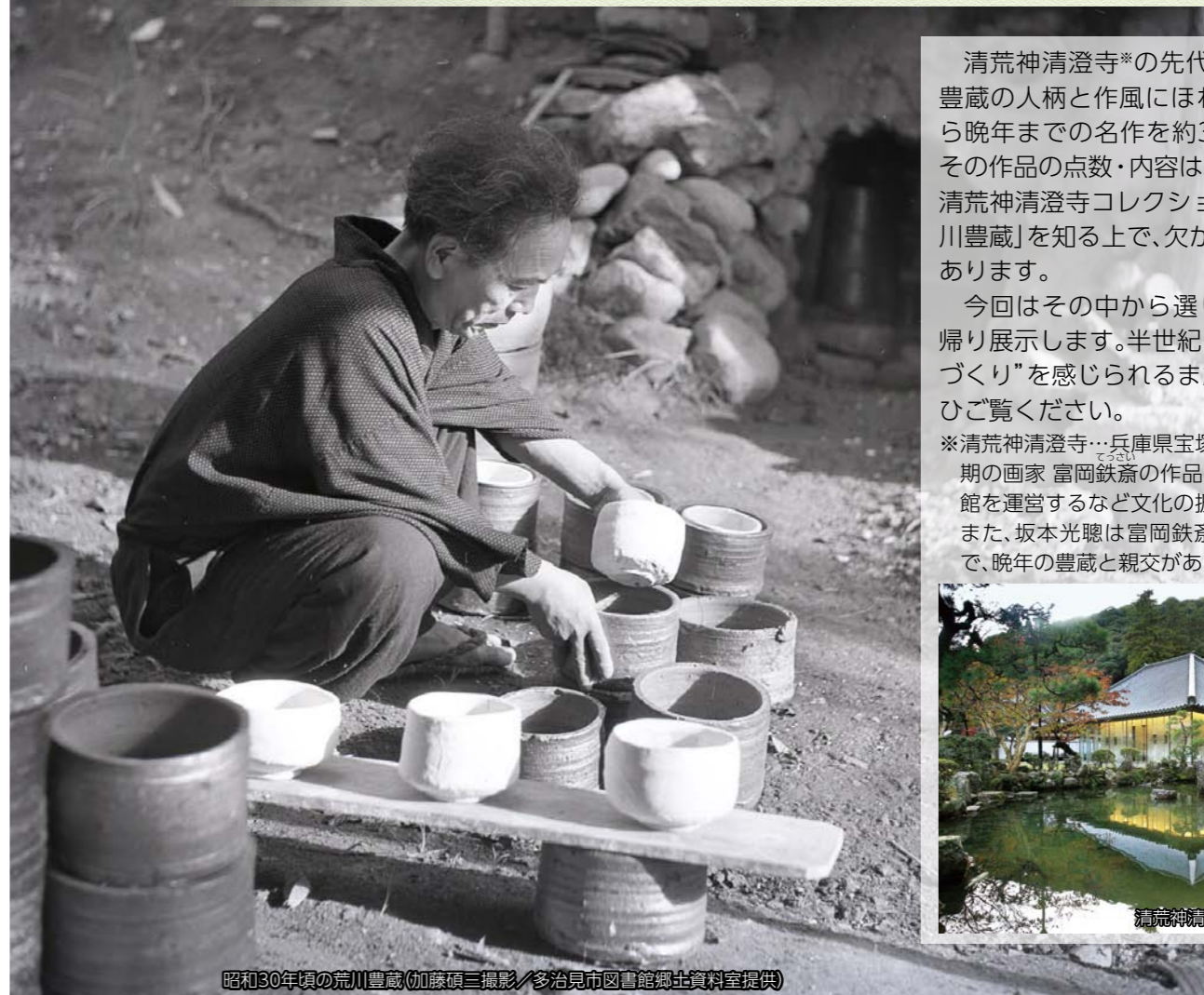
国際陶磁器フェスティバル美濃 '21

きよしこうじん せいちょうじ

清荒神清澄寺コレクション 荒川豊蔵作品展

場所 荒川豊蔵資料館 期間 9/18(土)~11/28(日)

2~5ページに掲載の内容は、新型コロナウイルス感染症の影響で変更となる場合があります。開催の有無・方法などの最新情報は、ホームページでご確認ください。



昭和30年頃の荒川豊蔵(加藤碩三撮影/多治見市図書館郷土資料室提供)

清荒神清澄寺*の先代の和上 坂本光聰は、豊蔵の人柄と作風にほれ込み、豊蔵の初期から晩年までの名作を約300点収集しました。その作品の点数・内容はともに最高峰を誇り、清荒神清澄寺コレクションには「人間国宝 荒川豊蔵」を知る上で、欠かせない作品が数多くあります。

今回はその中から選りすぐりの42点を里帰り展示します。半世紀にわたる「豊蔵のものづくり」を感じられるまたとない機会です。ぜひご覧ください。

*清荒神清澄寺…兵庫県宝塚市にある寺。明治・大正期の画家 富岡鉄斎の作品を多く所蔵する鉄斎美術館を運営するなど文化の振興にも注力しています。また、坂本光聰は富岡鉄斎の愛好家同士という縁で、晩年の豊蔵と親交がありました。



清荒神清澄寺内にある鉄斎美術館別館

来館者プレゼント

9/18~11/28の期間中、荒川豊蔵資料館または可児郷土歴史館に入館した人全員にオリジナルグッズをプレゼントします(1人1品)。
※写真はイメージです。グッズの内容は変更となる場合があります。



同時開催企画展 荒川豊蔵作品展 自分好みを探す

場所 可児郷土歴史館 期間 9/18(土)~11/28(日)

陶器だけでなく、絵や木工などの豊蔵作品を約20点紹介します。さまざまな豊蔵作品の中から「自分好み」を探してみませんか。

入館案内

入館時間 荒川豊蔵資料館 9:30~15:30
可児郷土歴史館 9:00~16:00
入館料 大人210円、高校生以下・障がい者(手帳提示)と付き添い1人は無料
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日
※展示品入替えのため9/14(火)~9/17(金)は2館とも休館。